

井の頭一丁目町会「居場所作りと廃油回収を通して地域の交流を深める事業」

団体名称	井の頭一丁目町会
事業名	居場所作りと廃油回収を通して地域の交流を深める事業
助成対象事業区分	他団体との協働事業
事業実施期間	平成21年11月10日～平成22年3月31日

町会・自治会の概要

団体名称	井の頭一丁目町会	設立年月日	昭和49年4月1日
構成団体数	12団体 (平成21年10月末現在)	構成世帯数	885世帯 (平成21年10月末現在)

【事業の概要】

- ・ 備品を購入し、かねてより機能していた「みんなのブックカフェ」のさらなる整備を実施した。
- ・ 地域の交流の場への参加をさらに促すことを目的として、下記の事業を実施した。
- ・ 高齢者対象のイベントとして、クリスマスのステンシル講座、新春寄席を実施。
- ・ 赤ちゃんとお母さん対象のイベントを開催。
- ・ 廃油回収にかかる業務の実施（広報活動も含む）
- ・ 夜桜キャンドルナイトの実施。

成立は昭和49年であり、約40年の歴史を持っている。

町会内の特徴は、もともと生活水準の高い人々が多いということもあり、独立意識が高いことが挙げられる。この結果は桜美林大学の調査でも明らかになっており、「自分のことは自分で行う」と考えている世帯が多い印象がある。このため町会活動にもあまり関心が高くなく、事業実施の会場、井の頭東部地区公会堂の利用も少ない。

現在の加入状況は900世帯弱である。以前は1,000世帯程度の規模であったが、高齢化等の影響もあり、加入数は減少している。また結成当初に町会に加入したメンバーの多くが現在70代を迎えており、高齢化が進んでいるため、人々の流入・流出はこれまで多くなかった。しかし一方で、近年、住宅環境の良さなどが認知されてきたこともあり、最近では若い人の流入も見受けられる。

助成を活用する取り組みに至った背景、問題意識等

2008年7月から世代を超えた地域の交流の場「みんなのブックカフェ」事業を2週間に1度、実施している。町会の人々が気軽に集まれる場を作り、「顔の見えるご近所づきあい」のきっかけになることを目的としている。この事業は、三鷹市のがんばる地域応援プロジェクト（町会自治会活性化事業）に採択され、助成金を得て始め、現在も継続中である。この事業によって、町会の人々が歩いて行けるところに交流の場が出来、一定の効果が認められた。

しかしながら、本来重視していたターゲットである、家に閉じこもりがちな赤ちゃん連れの親や高齢者の参加は当初ほとんどなかった。そこで赤ちゃん連れでも参加しやすい場作りをし、また対象を絞ったイベントを開催しようと東京都の「地域の底力再生事業助成」を利用することとなった。

またすでにおこなっていた廃油回収（家庭の使用済み食用油の回収）の活動を広げるため、手作り紙芝居を作成、廃油と空きびんで作ったキャンドルナイトを開催した。

事業を実施する上での問題点、創意工夫を行ったところ

事業を実施する上で特別、問題らしい問題はなかった。すでに様々な分野で活動しているメンバーが知恵を出し合ったことが功を奏していると思われる。

創意工夫としては、集まってくれたメンバー1人1企画アイデアを出してもらい、それを結集して事業化したことにある。

また、いかに対象とする人に企画に参加してもらうかを考え、様々な情報伝達手段を用いた。回覧板、町会の掲示板は従来どおり活用し、それ以外に若い人向けには、ブログ、地域 SNS を用い、また高齢者向けには、町会で実施したバス旅行の際に直接、話をした。

■みんなのブックカフェ 内部の様子■



■ みんなのブックカフェ 外部の様子 ■

手作り紙芝居



廃油と空きピンのキャンドル作りと
キャンドルナイト



新春初笑い寄席



事業の取り組み、地域への波及効果

新春寄席にはたくさんの参加があったが、当初想定していた高齢者だけでなく、幼児や小学生の参加も多かった。またこの寄席がきっかけとなって、4月から「みんなのブックカフェ」活動時に毎回ストレッチの会も実施され、高齢者の参加が増えた。

赤ちゃんとお母さん対象のイベントである、ベビー＆ママレッスンにはのべ62組の親子の参加があった。また、このイベントをきっかけにして自主グループができ、「みんなのブックカフェ」と連携しながら活動している。このように、目的をもった集まりができてきたことは、大きな成果であると考えている。目的もなく集まるだけでは、参加を促すことは出来ない。また「場づくり」は口コミで広がるため、こうした形態の集まりが自主的に発生したことには大きな意義がある。

廃油回収も紙芝居やキャンドルナイトの広報活動によって成果があがった。回収量が増加し、処分に困っている人が他の地域から持ってくるケースも出てきている。

東京都による助成が役立った点

財政的に助けてもらったのはもちろん、東京都の「地域の底力再生事業助成」を利用したことを各種配布物等に記載することにより、「意義のある活動である」と認識してもらえ、いわばお墨付きの効果が大きかった。

今後の助成事業の活用

町会が強制するのではなく、自主的に執り行う取り組みが増えてきている。今後もこうした取り組みが生まれるよう、長期的な視野で活動に従事していきたい。最終的には、町会内部だけで完結するのではなく、その外部の人、地域をも巻き込んだ、真に豊かで活気のあるコミュニティづくりを目指し、一層の町会活動に取り組んでいきたい。